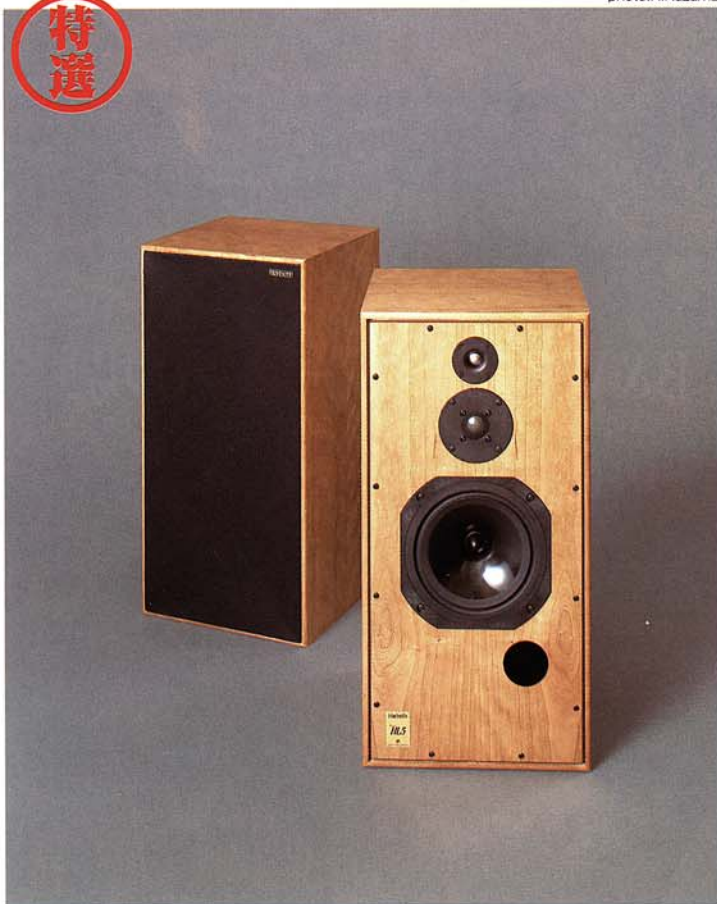


スピーカーシステム

ハーベス SuperHL5 ¥438,900(pair/税込)

特選

photo:K.Kazama



●型式：3ウェイ3スピーカー、バスレフ型●使用ユニット：[W]200mm[T]25mm[ST]20mm●周波数特性：40Hz~24kHz●出力音圧レベル：86dB●インピーダンス：8Ω●クロスオーバー周波数：3.5kHz, 10kHz●入力端子：バナナプラグ対応, バイワイヤリング対応●大きさ：323W×635H×305Dmm●重さ：16.8kg●問い合わせ：エムプラスコンセプト ☎045(845)7639

*試験機：Ser.8323L/R

【プロフィール】本機は1988年に発売されたHL5のリファインモデル。SACDなどの再生に対応するため、従来の2ウェイを基本に新たに超高音域までの再生帯域を確保するスーパーツイーターを追加している。そのスーパーツイーターには20mm口径のチタニウム・ダイアフラムのハードドーム型を搭載し、10kHz以上の帯域を受け持たせている。ツイーターは25mm口径のアルミニウム・ダイアフラムのハードドーム型。ミッドバス・ユニットは同社オリジナルのポリプロピレンダイアフラムをベースにした「RADIAL」コーンを採用した200mm口径。エンクロージャは重量と剛性で押しえつけるのではなく、ごく薄い硬度の高い素材の間に、レゾナンス、ステイフネスの異なる複数の素材を挟んだサンドイッチ構造で、素材そのものの物性とその組み合わせによって不要共振をダンピングしている。「スーパーグリル」と称しているフロントグリルには音波放射を整える役目を持たせ、フラットな周波数特性とワイドな指向特性を得ている。●遠藤

■石田 ★★★★★

フロントネットを外して聴くこともできるが、高域が強調気味でボーカルのサ行も強めになる。つけた状態のほうが音のバランスも整ってくる。チェンバロもネットにより音抜けが低下するような印象はなく空間に伸びやかに広がる。キャピティを十分に確保しているシステムだけに全体的なゆとりがあり、オーケストラの奥行きも十分に表現される。ローエンドはさして欲張らず、ファンダメンタルまでしっかり、というわけにはいかないようだが大太鼓はそれなりに感じさせる。聴感的には、若干強めの高域と豊かな低域のバランスが微妙なハーベスらしきで、中域の密度もしっかりとしていて、伝統的なハーベスの魅力を改めて感じさせる。

■須藤 ★★★★★

しなやかな質感とトータルバランスに優れた音場の再現能力が魅力である。滑らかだがシャキッとした繊細な響きの拡散が美しい。チェンバロの繊細な響きが薄くなることもなく、フルートの素直な質感にも美しい響きが秘められている。ストリングスの展開では雄大な表情にも抑揚感を聴くことができ、心地よい。クラリネットの素直な木質感も好印象である。ピアノのイメージでは響きの美しさと空気感の融合が聴き手を魅了する。音楽のナチュラルな定位感には、安定度の高いゆったり感もあって素敵である。オーケストラのステージではしなやかな表情と華麗な響きの拡散との融合がある。ジャズボーカルの豪快な生々しさも良好。

■福田 ★★★★★

これぞ期待のニューハーベストーンといった印象だ。ハーベスといえどもさすがに現代サウンドという点では限界も感じられていた。今回は実効振動板口径160mmのウーファーによる2ウェイにスーパーツイーターという構成で、他の見直しも同時にされているが、高域を補った成果は高音スペクトラムの情報量に出ており、繊細な表現力と低域についてもバランスのとれたエネルギー量、深みをだす響きで、帯域の表現力は格段に魅力をましている。ナチュラル基調の極めて均質なエネルギー分布でチューニング、カラーレーションの少ない素直な音質がベースであり、こもりが少なく適度なつやと色彩性でクラシック系の質感に調和する性質をそなえている。